

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成30年12月13日

【四半期会計期間】 第17期第2四半期(自 平成30年8月1日 至 平成30年10月31日)

【会社名】 株式会社ビューティガレッジ

【英訳名】 BEAUTY GARAGE Inc.

【代表者の役職氏名】 代表取締役CEO 野村 秀輝

【本店の所在の場所】 東京都世田谷区桜新町一丁目34番25号

【電話番号】 03 - 5752 - 3897

【事務連絡者氏名】 上席執行役員 経営管理グループ統括責任者 伊藤 雅之

【最寄りの連絡場所】 東京都世田谷区桜新町一丁目34番25号

【電話番号】 03 - 5752 - 3897

【事務連絡者氏名】 上席執行役員 経営管理グループ統括責任者 伊藤 雅之

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第16期 第2四半期 連結累計期間	第17期 第2四半期 連結累計期間	第16期
会計期間		自 平成29年5月1日 至 平成29年10月31日	自 平成30年5月1日 至 平成30年10月31日	自 平成29年5月1日 至 平成30年4月30日
売上高	(百万円)	5,377	6,473	11,680
経常利益	(百万円)	233	214	653
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	(百万円)	198	125	449
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	200	124	455
純資産額	(百万円)	2,212	3,550	3,116
総資産額	(百万円)	4,482	6,259	6,076
1株当たり四半期(当期) 純利益金額	(円)	33.30	19.75	75.11
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)	32.52	19.75	74.19
自己資本比率	(%)	48.7	55.8	50.7
営業活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	48	103	152
投資活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	125	90	507
財務活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	151	113	818
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(百万円)	1,117	1,752	1,607

回次		第16期 第2四半期 連結会計期間	第17期 第2四半期 連結会計期間
会計期間		自 平成29年8月1日 至 平成29年10月31日	自 平成30年8月1日 至 平成30年10月31日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	10.39	7.83

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、前第2四半期連結累計期間および前連結会計年度に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

#### 2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社および当社の関係会社)が営んでいる事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社における異動については、前連結会計年度まで持分法を適用しない非連結子会社であったBEAUTY GARAGE SINGAPORE PTE.LTD.及び、BEAUTY GARAGE MALAYSIA SDN.BHD.を重要性が増したため、第1四半期連結会計期間より連結の範囲に含めております。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

該当事項はありません。

### 2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益や雇用・所得環境の改善からの個人消費の増加を背景として、景気は緩やかな回復基調を維持しました。また世界経済においても、全体として緩やかな成長を維持したものの、新興国の経済悪化の懸念や、各国の貿易政策等の通商問題といった不安定要素もあり、先行きは不透明な状態にあります。

美容業界におきましても、顧客単価の下落や来店頻度の減少といった厳しい事象が続いており、結果として低価格店の登場や専門店への細分化、フリーランスの増加等、ビューティサロンの経営環境も変化してきており、生き残りをかけた店舗間競争が激化してきております。

そのような状況下、当社グループではかねてより開発を行ってまいりました、ECサイトのフルリニューアルと新基幹システム（ERP）の導入を平成30年5月に実施いたしました。導入当初は不具合による混乱が生じお客様に多大なるご迷惑をお掛けしてしまいましたが、間もなくトラブルは収束し現在では利便性と生産性の向上を図るべく日々改善を行っております。

また同7月にBEAUTY GARAGE SINGAPORE PTE.LTD.、同8月にはBEAUTY GARAGE MALAYSIA SDN.BHD.での営業を開始いたしました。更には台湾千冠莉有限公司のM&Aによる子会社化を行い、グローバル市場における販路獲得に向けた施策を推進いたしました。一方国内においては、同9月に美容サロンに特化したM&A仲介サービス「サロンM&Aネット」のスタートや、美容師や美容室経営者の為のビジネスメディア「BeuTOPIA」を開設するなど、美容業界内のニーズに応え可能性を広げるべく新規サービス等も立ち上げました。また、最新版通販カタログ誌「BG STYLE」3種も発刊し、業容拡大に向けた積極的な投資とプロモーション活動を行っております。

その結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は6,473,251千円（前年同期比20.4%増）、売上総利益は1,994,456千円（前年同期比14.6%増）、営業利益は215,719千円（前年同期比5.8%減）、経常利益は214,275千円（前年同期比8.2%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は125,678千円（前年同期比36.8%減）となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

#### 物販事業

物販事業においては、インターネット通販サイト「BEAUTY GARAGE Online Shop」、全国主要都市のショールーム+法人営業チーム、カタログ通販誌「BG STYLE」を通して、理美容機器や化粧品・消耗品等のプロ向け美容商材を、全国の理美容室、エステサロン、リラクゼーションサロン、ネイルサロン、アイラッシュサロン向けに提供しております。

累計登録会員総数は364,464口座（前年同期比11.0%増）、アクティブユーザ数（過去1年間で1回以上購入したユーザ数）は102,523口座（前年同期比8.0%増）、ロイヤルユーザ数（過去1年間で6回以上購入したユーザ数）は26,462口座（前年同期比20.5%増）となり、リピート顧客の増加が顕著となりました。

当第2四半期連結累計期間におきましては、成長カテゴリーである化粧品・材料の受注を拡大するべく、プライスリーダーシップ戦略で市場シェア獲得に注力してまいりました。その結果として売上高は順調に伸長致しましたが、その一方でPB機器の販売が伸び悩んだことや為替相場が円安傾向に推移したことの影響もあり、売上総利益率が低下する結果となりました。また新ECサイトに対する投資費用が高んだことに加え、通販カタログ3種の発刊費用や、海外拠点（シンガポール、マレーシア、台湾）における営業体制構築のための投資が先行する時期となりました。なお、新基幹システム（ERP）の導入に合わせて全社費用の範囲の見直しを行った結果、物販事業に帰属する営業費用が増加しております。

この結果、当事業の売上高は4,995,007千円（前年同期比22.2%増）、セグメント利益は197,153千円（前年同期比36.4%減）となりました。

#### 店舗設計事業

店舗設計事業におきましては、連結子会社である株式会社タフデザインプロダクトにより東京・金沢・福岡・大阪・名古屋において店舗設計・工事施工監理を提供しております。

これまでトレンドを捉えたデザイン性の高い店舗設計デザインの提案を行うことで独立開業を目指す顧客から高い支持を得ておりましたが、ビューティガレージグループとしての連携強化と積極的な営業活動を行った結果、チェーン店本部からの受注や大型店舗からの受注が増加し、当事業の売上高は1,274,328千円（前年同期比7.8%増）、セグメント利益は60,638千円（前年同期比6.7%減）となりました。

#### その他周辺ソリューション事業

その他周辺ソリューション事業におきましては、ビューティサロンの開業と経営に必要なサポートとして開業プロデュースサービス、居抜き物件仲介サービス、集客支援サービス、保険サービス、システム導入支援サービス、店舗リース等の各種ソリューションサービスを、各専門インターネットサイトと全国主要都市のショールームを通して提供しております。

当該事業は、単体での収益化以上に当社グループの主力事業である物販事業や店舗設計事業への入口、繋ぎ役としての役割に重きを置くようになっております。

当第2四半期連結累計期間におきましては、店舗リース事業が大きく伸長したことに加え、不動産事業、保険サービスが堅調に推移し、当事業の売上高は203,914千円（前年同期比85.8%増）、セグメント利益は20,847千円（前年同期は6,629千円の損失）となっております。

## (2) 財政状態の分析

### (流動資産)

当第2四半期連結会計期間末における流動資産は、前連結会計年度末に比べて2.3%増加し、4,971,451千円となりました。これは、主に現金預金及び棚卸資産の増加によるものであります。

### (固定資産)

当第2四半期連結会計期間末における固定資産は、前連結会計年度末に比べて5.7%増加し、1,288,006千円となりました。これは、有形固定資産、無形固定資産及び投資その他の資産の増加によるものであります。

### (流動負債)

当第2四半期連結会計期間末における流動負債は、前連結会計年度末に比べて8.5%減少し、2,384,949千円となりました。これは、主に仕入債務及び短期借入金の減少によるものであります。

### (固定負債)

当第2四半期連結会計期間末における固定負債は、前連結会計年度末に比べて8.1%減少し、323,617千円となりました。これは、主に長期借入金の減少によるものであります。

### (純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べて13.9%増加し、3,550,891千円となりました。これは、主に配当金の支払に伴い利益剰余金の減少55,957千円があったものの、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上に伴い利益剰余金の増加125,678千円があったことによるものであります。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ144,705千円増加し、1,752,354千円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況は以下のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果増加した資金は、103,784千円（前年同期は48,212千円の資金減少）となりました。これは、主にたな卸資産の増加及び仕入債務の減少があったものの、前受金の増加及び売上債権の増加があったことによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は、90,866千円（前年同期は125,666千円の資金減少）となりました。これは、主に敷金・保証金の差入れ、有形固定資産及び無形固定資産の取得によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果増加した資金は、113,096千円（前年同期は151,466千円の資金増加）となりました。これは、主に長期借入金の返済及び短期借入金の返済による支出があったものの、株式の発行による収入があったことによるものであります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 生産、受注及び販売の実績

生産実績

当第2四半期連結累計期間における生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	生産高(千円)	前年同四半期比(%)
店舗設計事業	1,106,758	8.0

- (注) 1. セグメント間取引については、相殺消去しております。  
2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。  
3. 金額は製造原価によっております。

仕入実績

当第2四半期連結累計期間における仕入実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	仕入高(千円)	前年同四半期比(%)
物販事業	3,474,951	23.3
その他周辺ソリューション事業	83,178	599.7
合計	3,558,129	25.7

- (注) 1. セグメント間取引については、相殺消去しております。  
2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。  
3. 金額は仕入価格によっております。

受注実績

当第2四半期連結累計期間における受注実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高(千円)	前年同四半期比(%)	受注残高(千円)	前年同四半期比(%)
店舗設計事業	1,377,465	16.6	444,770	1.0

- (注) 1. セグメント間取引については、相殺消去しております。  
2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

販売実績

当第2四半期連結累計期間における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	区分	販売高(千円)		前年同四半期比(%)
		前第2四半期連結累計期間	当第2四半期連結累計期間	
物販事業		4,086,037	4,995,007	22.2
	理美容機器	2,426,316	2,458,544	1.3
	化粧品等	1,659,720	2,222,700	33.9
	金属スチール家具	-	313,762	-
店舗設計事業		1,181,587	1,274,328	7.8
その他周辺ソリューション事業		109,750	203,914	85.8
合計		5,377,375	6,473,251	20.4

- (注) 1. セグメント間取引については、相殺消去しております。  
2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	21,160,000
計	21,160,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成30年10月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成30年12月13日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	6,376,000	6,376,000	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は100株 であります。
計	6,376,000	6,376,000		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成30年8月1日～ 平成30年10月31日		6,376,000		768,385		719,652

(5) 【大株主の状況】

平成30年10月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式 (自己株式を 除く。)の 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
野村 秀輝	東京都世田谷区	1,802,700	28.27
供田 修一	東京都杉並区	770,800	12.08
野村 貴久	東京都世田谷区	290,000	4.54
NORTHERN TRUST CO.(AVFC) SUB A/C NON TREATY (常任代理人 香港上海銀行東 京支店 カストディ業務部 Senior Manajor,Operation 小松 原英太郎)	50 BANK STREET CANARY WH ARF LONDON E14 5NT,UK (東京都中央区日本橋3丁目11-1)	282,600	4.43
高橋 慧	東京都新宿区	269,400	4.22
樺島 義明	東京都中央区	250,000	3.92
GOLDMAN SACHS & CO.REG (常任代理人 ゴールドマン・ サックス証券株式会社)	200 WEST STREET NEW YORK,NY,USA (東京都港区六本木6丁目10番1号 六本木ヒルズ森タワー)	234,500	3.67
日本トラスティ・サービス信託 銀行株式会社(信託口)取締役 社長 田中嘉一	東京都中央区晴海1丁目8-11	172,000	2.69
THE BANK OF NEW YORK MELLON 140040 (常任代理人 株式会社みずほ銀 行決済営業部 部長 佐古智 明)	USNY 225 LIBERTY STREET, NEW YORK, NEW YORK, U.S.A. (東京都港区港南2丁目15-1 品川インターシティA棟)	137,800	2.16
株式会社SBI証券 代表取締 役社長 高村正人	東京都港区六本木1丁目6番1号	107,600	1.68
計	-	4,317,400	67.71



## (6) 【議決権の状況】

## 【発行済株式】

平成30年10月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 400		
完全議決権株式(その他)	普通株式 6,370,800	63,708	単元株式数は100株であります。権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。
単元未満株式	普通株式 4,800		
発行済株式総数	6,376,000		
総株主の議決権		63,708	

## 【自己株式等】

平成30年10月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社ビューティガ レッジ	東京都世田谷区桜新町一丁 目34番25号	400		400	0
計		400		400	0

## 2 【役員 の 状況】

前事業年度の有価証券報告書提出後、当第2四半期累計期間における役員の異動はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(平成30年8月1日から平成30年10月31日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成30年5月1日から平成30年10月31日まで)の四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより四半期レビューを受けております。

## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年4月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年10月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,607,648	1,752,354
受取手形及び売掛金	1,139,389	976,516
商品及び製品	1,449,812	1,650,843
仕掛品	99,578	171,849
その他	585,754	434,938
貸倒引当金	24,657	15,050
流動資産合計	4,857,526	4,971,451
固定資産		
有形固定資産	244,505	260,248
無形固定資産		
のれん	122,683	166,585
ソフトウェア	36,447	332,974
ソフトウェア仮勘定	311,367	300
その他	755	755
無形固定資産合計	471,253	500,614
投資その他の資産	502,909	527,142
固定資産合計	1,218,668	1,288,006
資産合計	6,076,194	6,259,458
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,053,865	721,729
短期借入金	143,334	63,336
1年内返済予定の長期借入金	178,933	136,649
未払法人税等	156,519	122,126
賞与引当金	36,145	154,175
製品保証引当金	5,832	4,843
受注損失引当金	11,241	8,236
株主優待引当金	3,240	1,620
役員退職慰労引当金	75,000	75,000
その他	943,179	1,097,232
流動負債合計	2,607,290	2,384,949
固定負債		
長期借入金	174,226	136,326
ポイント引当金	59,049	67,543
資産除去債務	44,018	44,092
退職給付に係る負債	17,342	8,362
その他	57,694	67,293
固定負債合計	352,331	323,617
負債合計	2,959,622	2,708,566
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	593,232	768,385
資本剰余金	543,999	714,596
利益剰余金	1,944,551	2,014,272
自己株式	351	351
株主資本合計	3,081,432	3,496,902
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	-	3,757
その他の包括利益累計額合計	-	3,757
新株予約権	1,903	1,028
非支配株主持分	33,236	56,718
純資産合計	3,116,572	3,550,891
負債純資産合計	6,076,194	6,259,458

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年5月1日 至平成29年10月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年5月1日 至平成30年10月31日)
売上高	5,377,375	6,473,251
売上原価	3,636,329	4,478,794
売上総利益	1,741,046	1,994,456
販売費及び一般管理費	1 1,512,155	1 1,778,736
営業利益	228,891	215,719
営業外収益		
受取利息及び配当金	47	19
受取手数料	471	538
為替差益	4,276	-
その他	1,023	946
営業外収益合計	5,819	1,504
営業外費用		
支払利息	467	1,050
為替差損	-	600
障害者雇用納付金	640	360
その他	65	937
営業外費用合計	1,172	2,948
経常利益	233,538	214,275
特別利益		
新株予約権戻入益	236	-
固定資産売却益	-	89
特別利益合計	236	89
特別損失		
和解金	489	-
特別損失合計	489	-
税金等調整前四半期純利益	233,285	214,365
法人税、住民税及び事業税	70,109	105,076
法人税等調整額	37,102	18,804
法人税等合計	33,007	86,271
四半期純利益	200,277	128,094
非支配株主に帰属する四半期純利益	1,292	2,415
親会社株主に帰属する四半期純利益	198,985	125,678

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年5月1日 至平成29年10月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年5月1日 至平成30年10月31日)
四半期純利益	200,277	128,094
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	-	3,992
四半期包括利益	200,277	124,102
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	198,985	121,921
非支配株主に係る四半期包括利益	1,292	2,180

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年5月1日 至平成29年10月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年5月1日 至平成30年10月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	233,285	214,365
減価償却費	25,033	59,650
のれん償却額	-	20,054
貸倒引当金の増減額(は減少)	2,933	9,606
ポイント引当金の増減額(は減少)	2,632	8,493
製品保証引当金の増減額(は減少)	6,257	989
株主優待引当金の増減額(は減少)	1,620	1,620
その他の引当金の増減額(は減少)	97,058	106,044
受取利息及び受取配当金	47	19
支払利息	467	1,050
有形固定資産除売却損益(は益)	-	89
売上債権の増減額(は増加)	6,300	163,026
たな卸資産の増減額(は増加)	119,282	302,579
仕入債務の増減額(は減少)	109,176	335,544
前渡金の増減額(は増加)	105,222	132,339
未払金の増減額(は減少)	34,879	86,923
前受金の増減額(は減少)	147,656	183,554
新株予約権戻入益	236	-
その他	71,496	88,695
小計	74,268	239,902
利息及び配当金の受取額	47	19
利息及び保証料の支払額	495	1,013
和解金の支払額	489	-
法人税等の支払額又は還付額(は支払)	121,545	135,123
営業活動によるキャッシュ・フロー	48,212	103,784
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	52,832	31,957
有形固定資産の売却による収入	-	90
無形固定資産の取得による支出	61,732	28,220
投資有価証券の取得による支出	-	15,474
投資有価証券の売却による収入	1,000	-
敷金保証金の差入による支出	25,701	31,508
敷金保証金の回収による収入	13,886	16,698
その他	286	493
投資活動によるキャッシュ・フロー	125,666	90,866
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入れによる収入	15,000	-
短期借入金の返済による支出	24,996	79,998
長期借入れによる収入	300,000	-
長期借入金の返済による支出	96,858	116,003
株式の発行による収入	-	349,430
非支配株主からの払込みによる収入	-	15,617
配当金の支払額	41,679	55,949
財務活動によるキャッシュ・フロー	151,466	113,096
現金及び現金同等物に係る換算差額	4,381	1,955
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	26,793	124,059
現金及び現金同等物の期首残高	1,144,323	1,607,648
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	-	20,646
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,171,116	1,752,354

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

当第2四半期連結累計期間 (自 平成30年5月1日 至 平成30年10月31日)
前連結会計年度まで持分法を適用しない非連結子会社であった、BEAUTY GARAGE SINGAPORE PTE.LTD.及び、BEAUTY GARAGE MALAYSIA SDN.BHD.については、重要性が増したため、第1四半期連結会計期間より連結の範囲に含めております。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示しています。

(四半期連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成29年5月1日 至 平成29年10月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成30年5月1日 至 平成30年10月31日)
給料手当	324,951千円	350,171千円
賞与引当金繰入額	85,746 "	100,818 "
貸倒引当金繰入額	8,323 "	6,940 "
ポイント引当金繰入額	46,935 "	59,260 "
製品保証引当金繰入額	3,951 "	6,189 "
株主優待引当金繰入額	838 "	863 "

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成29年5月1日 至 平成29年10月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成30年5月1日 至 平成30年10月31日)
現金及び預金	1,117,529 千円	1,752,354 千円
預入期間が3か月を超える定期預金	"	"
現金及び現金同等物	1,117,529 千円	1,752,354 千円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 平成29年5月1日 至 平成29年10月31日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年6月19日 取締役会決議	普通株式	41,828	7.00	平成29年4月30日	平成29年7月28日	利益剰余金

2 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの  
該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 平成30年5月1日 至 平成30年10月31日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成30年6月14日 取締役会決議	普通株式	55,957	9.00	平成30年4月30日	平成30年7月27日	利益剰余金

2 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの  
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 平成29年5月1日 至 平成29年10月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	物販事業	店舗設計事業	その他周辺ソ リユーション 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	4,086,037	1,181,587	109,750	5,377,375	-	5,377,375
セグメント間の内部売上高 又は振替高	191,960	31,043	31,910	254,913	254,913	-
計	4,277,997	1,212,630	141,661	5,632,289	254,913	5,377,375
セグメント利益	309,831	64,981	6,629	368,184	139,293	228,891

(注) 1. セグメント利益の調整額 139,293千円には、セグメント間取引消去14,038千円、未実現利益の調整額 2,126千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 151,205千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 平成30年5月1日 至 平成30年10月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	物販事業	店舗設計事業	その他周辺ソ リユーション 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	4,995,007	1,274,328	203,914	6,473,251	-	6,473,251
セグメント間の内部売上高 又は振替高	149,321	29,784	14,642	193,749	193,749	-
計	5,144,329	1,304,113	218,557	6,667,000	193,749	6,473,251
セグメント利益	197,153	60,638	20,847	278,639	62,920	215,719

(注) 1. セグメント利益の調整額 62,920千円には、セグメント間取引消去25,353千円、未実現利益の調整額 3,084千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 91,358千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。



(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年5月1日 至平成29年10月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年5月1日 至平成30年10月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	33.30 円	19.75 円
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	198,985	125,678
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(千円)	198,985	125,678
普通株式の期中平均株式数(株)	5,975,556	6,362,121
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	32.52 円	19.75 円
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額(千円)		
普通株式増加数(株)	143,232	1,226
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要		

## 2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成30年12月13日

株式会社 ビューティガレッジ  
取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	中	塚	亨
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	中	山	太一

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ビューティガレッジの平成30年5月1日から平成31年4月30日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成30年8月1日から平成30年10月31日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成30年5月1日から平成30年10月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ビューティガレッジ及び連結子会社の平成30年10月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。